

# 宮崎ロータリークラブ週報



no. 21 | 発行 | 2023年12月5日 | 担当 | 藤枝 浩

## ■ 前回の例会記録

第3407回 2023年11月21日(火)

### 【ゲスト卓話】

青島太平洋マラソン実行委員長  
中武 悌晴 様  
「青太をめぐる37年の冒険」

### 出席状況報告

会員数(名誉会員2名を除く)	108名
例会出席会員数	60名
同上出席率	57.69%

## ■ 今回の例会予定

第3408回 2023年12月5日(火)

### 【ゲスト卓話】

宮崎県青年海外協力隊を支援する会  
事務局長 有里 泰徳 様  
「交流羅針盤～出会いは宝～」

\* 誕生日祝・結婚記念日祝(親睦委員会)

## ■ 次回の例会予定

第3409回 2023年12月12日(火)

### 【「持ち味」を知る・学ぶ委員会】

大園 匡 委員長

## ■ 幹事報告

- 配布物の確認
  - ・週報no 19
- 報告 告知
  - ・11月28日の例会は休会「OB交流会」に振り替え
  - ・オリジナルマグカップについて
  - ・池ノ上ガバナーの動き

## ■ ビジター会員



第47代会長  
定永 正明 名誉会員



Happy Box  
坂下 孝二 会員

会長杯並びにOB交流会ゴルフコンペにて優勝  
させていただきました。当日は天候にも同伴メン  
バーにも恵まれ楽しいゴルフができました。ありが  
とうございました。



Happy Box  
金丸 宜裕 会員

本日、令和5年度宅地建物取引士試験の合格発  
表があり、別府市の不動産会社に勤務するアメリカ  
人の長女の夫が、合格しました。「I did it」とLINE  
が来ましたのでHappyさせていただけます。

## ■ 会長の時間



会長卓話  
岡本 俊則 会長

皆様こんにちは、本日はゲスト卓話に青島太平洋マ  
ラソン実行委員長の中武悌晴さんにおこし頂いており  
ます「青太をめぐる37年の冒険」という題目で卓話を  
頂戴致します。12月10日の本番を目の前にしたご多忙  
の中ご調整頂き誠に有り難うございます。

実は中武さんと私は極めて親しい間柄であります。  
血の繋がりがこそありませんが親戚以上、まるで兄弟の  
様な関係です。ただ最近はお互い多忙なために殆ど  
会話をしておりません。今日はどうな話をされるのか全

く知りませんので逆に客観的に楽しみにしております。  
さて、私の今日の話は、現在、会員の皆様あてに候補  
者の推薦をお願いしております職業奉仕賞の話をして  
させて頂こうと思っております。

まずは、職業奉仕賞とはいったい何だろう?どうやっ  
て出来たのだろうかと言うところから話を参ります。

職業奉仕賞は宮崎ロータリークラブ初代会長の岩  
切章太朗さんがクラブの創立10周年に際して、記念  
になる事業の必要性を訴え誕生致しました。

～画像スライド～ 当時の章太朗さんの思いを併  
せてご紹介します。

内容は次のとおりです。

①皆様ロータリーの錆という言葉をご存じでしょうか?  
何でも永く使っていると錆がつく。錆は取り除かなけ  
ればならない。と言うことです。章太朗さんはこう考  
えました。

「宮崎ロータリークラブも創立して10年も経つと色々  
と錆が出てくる。」

②宮崎ロータリークラブはこれでいいか?疑うことによ  
って錆を発見出来る。

③「10周年を機に“あの創立当時の若々しい輝きに  
充ちた気持ちをもう一度回顧してみたい、そして再出  
発したいとしみじみ思うのである。」  
創立10周年の、この記念事業こそが章太朗が考  
える錆取りの絶好の機会だった。

④※ロータリーの文献「奉仕こそ我がつとめ」から抜粋  
第1章 クラリオンの呼び声

[職業奉仕とは、ロータリアンがロータリーの職業奉  
仕を實踐して得た利益をロータリアンでない他の  
人々と共に分かつこと、即ち一般の人々とロータリー  
の理想を共に分かつことである]

ロータリーは職業奉仕で社会に挑戦する、これこそ  
ロータリアンの放った嚮嘯(りゅうりょう)たるクラリ  
オンの呼び声である。

⑤これに対して章太朗は、私たちは職業奉仕をこんな  
にも重大なものとして認識しているだろうか?  
自問自答している

職業奉仕とは英語でヴォケーションサービスと言  
う、ヴォケーションと言うのは“神に召されたと言う意  
味だそうであるから、自分の職業を金儲けのためや、  
立身出世のためでなく、神様が、この職業は世の中  
の大事な仕事であるから、社会のためになるように  
立派にやり遂げなさい、と特別に指名して託された  
仕事であるとの自覚と信念で仕事をすると言う事  
である。

⑥職業奉仕の相手方は色々である。まず、第一はお客  
様である、社会一般である。社内に向かっては社員  
がある、その他すべての方面に向かって、常に「四つ  
のテスト」に依って自分を振り返って見るならば、き  
つと私たちの職業奉仕は立派に光を放つ訳である。

⑦従ってここに職業奉仕賞を制度化して毎年一回県  
内から職業奉仕の理想に近い人を見つけ出し、表  
彰をすることになれば、私たちはいやが応でも、その

選出について職業奉仕とは何ぞや?と真剣に考え  
て見なければならぬし、また自分の体験を話し合  
う機会も多くなるであろう。そして立派な人を見つけ  
出して表彰することによって、私たちは“こんな人”も  
いたのかと、自分をかづけ励ますことが出来ると共  
に地域社会の全般に、ロータリーの理想を詰め、より  
良い世の中を作り上げる上に一段と大きな利便を  
得ることになるであろうと思うのである。

(岩切章太朗 著)抜粋  
クラブ運営方針 P52

次ページ

## 職業奉仕賞贈呈規定

第一条 職業奉仕への理想を具現化した個人または  
法人、もしくは団体

第四条 宮崎県内より選考

第七条 表彰式は、毎年3月3日「宮崎ロータリークラブ  
創立記念日」  
※必要がある場合は記念日に近い例会  
本年度は3月5日例会

職業奉仕賞についてご理解頂けたことと思います。  
締め切りまであと一ヵ月程ありますので今日お話し  
た内容に合致する方をご推薦願いたいと思っております  
どうぞ宜しくお願い致します。  
以上で本日の会長挨拶を終わります。ご静聴ありが  
とうございました。



■ ゲスト卓話



「青太をめぐる37年の冒険」

青島太平洋マラソン実行委員長  
レースディレクター

中武 悌晴 様

青太(青島太平洋マラソン)は今年37回目の大会となりました。青太をご存じの方は多いと思いますが改めて37年の青太の冒険話をさせていただきます。

はじめに、全国に100近くの1万人を超える大型市民マラソン大会がありますが、民間主体の大会は青太を含め3大会と言われています。市民マラソンは公道を用いるため大規模な交通規制が必要となり、社会的な影響も大きいことから民間主体では運営が難しいとされています。しかし、青太は民間大会として行政や警察、市民の協力を得ながら37年間続けてきたという自負があります。

青太を主催するのは大きく5つの企業・団体によって構成される実行委員会です。『JTB宮崎観光受入協議会』、『JTB宮崎支店』、『MRT宮崎放送』、そして『青島地域振興協議会』です。さらに日本陸連公認大会であることから『宮崎陸上競技協会』にも主催に加わっていただいています。

青太が設立されたのは1987年(昭和62年)。地元の観光業界が自らイベントを実施しお客を呼びたい、そんな思いからマラソンが選ばれました。この頃全国で市民マラソン大会が設立されていた時期でした。一方、第1回大会の参加者数は664人、前途多難な船出でした。

ところがその後参加者数は順調に伸び10回大会では6,000人を超え国内で名が知られるようになります。しかし11回大会頃から参加者数の伸びが止まりその後の10年は横ばいが続きます。そして2006年の20回大会の時に2007年東京マラソン開催が発表されます。定員27,000人で参加料1万円。東京都心の名所を巡るコース。何もかもが驚きの大会でした。これを機に全国にマラソン大会が新設され大きなマラソンブームが訪れ青太も再び参加者が増えていきます。

37年の歴史の中でひとときわ印象的だった冒険を2つお話ししましょう。

ひとつは2021年の第35回大会。コロナで中止した翌年の大会です。中止になった年、大会の収入はなくなり事務局の存続は大ピンチとなります。スタッフにも辞めてもらい、事務局は私と家内の2人しかいない中

での再開決断でした。

いくらお金がかかるかわからないコロナ対策に苦悩する中、“希望の朝陽(あさひ)を共に見ないか”を合言葉に走り始めました。最も心配したランナー募集もいっぱいとなり、大会開催時期にはコロナの猛威も下火となり奇蹟的に大会は開催されました。多くのランナーから感謝の言葉をたくさんかけられ、体調を壊すほどの激務でしたが忘れることのできない冒険でした。

もう一つの冒険で最大の冒険は第22回大会(2008年)に実施したフルマラソンのコース大変更です。20回の節目の大会が終わり次のステージを模索していた頃、東京マラソンの開催が発表されマラソン界が大きく変わる予感がありました。そこにマラソンの好きな新しい知事が誕生します。知事の協力も得ながら宮崎市内中心部を貫くコース大変更が始まりました。

市内中心部へのコース変更には多くの課題が待ち構えていました。沿道の商店街や流通業界の理解、警備・看板等の莫大な経費増などなど。そんな中、大きな難題に当たります。中心部を分断するコースは歩行者も横断できないという問題です。商店街の皆さんには町の活性化に繋がると言いながら歩行者が迷惑するような事態では賛同が得られない。困った……。さんざん考えた中でランナーを止めずに歩行者を横断させる方法を考案します。あとでランパスと呼ぶ方法です。

実現には少なくとも200人の誘導員が必要なので工業高校に相談し陸上部や部活の生徒による実戦形式の練習会を行い大会を迎えました。全く初めてのチャレンジでしたが高校生を中心としたランパスは大成功でした。青太のランパスは全国のマラソン関係者の知るところとなり多くの視察者が訪れるようになりました。

コース変更を民間大会が自分たちの手でやり切った例は他にはありません。今の青太人気の元にもなった大事業、大冒険でした。

青太をめぐる37年の冒険は今日のところは終わります。しかしまだまだ冒険は続きます。暖かな目で永く青太を応援してもらえると嬉しいです。本日はありがとうございました。



Rotary  
第2730地区  
宮崎ロータリークラブ

**本年度(2023~2024)宮崎ロータリークラブの目標**

- ①国際ロータリー第2730地区 地区大会をホストクラブとして開催
- ②池ノ上克ガバナーの活動支援
- ③青島太平洋マラソン3キロの部 復活開催
- ④会員数100名以上の堅持と女性会員の増強
- ⑤例会出席率90%以上の確保
- ⑥ロータリー財団寄付一人あたり100ドル以上
- ⑦米山奨学会寄付一人あたり10,000円以上

<会長> 岡本 俊則  
<副会長> 藺田 潤子  
<幹事> 藺田 有美  
<会報委員会> 福松 修一郎

■例会日/毎週火曜日(12:30~13:30)  
■例会場/宮崎観光ホテル(☎27-1212)

日本の  
ひなた  
宮崎県